

第3学年〇組 道徳学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 礼儀正しいふるまい 中2－(1) 礼儀
資料名 「ことばのまほう」 (学校図書)

2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、落ち着いて行動できている子が多く、友達がまちがった行動をしたときには注意する子も多い。しかし、一方で友達に呼びかける際に聞いてくれない子がいると、乱暴な言葉を遣い周りの人達が不快に感じるという事もある。日常の話し方や言葉遣い、態度は、相手にどんな思いをさせているのか、どういう話し方、言葉遣い、接し方をしたらよいのか、頭では分かっているが、実際の場面では、相手のことを思いやった言葉や態度がとれずに、相手に不愉快な思いをさせた経験をもっている児童もいる。

そこで、相手の気持ちを自分に置き換えてとらえることができ始めているこの時期に、礼儀の大切さへの理解を基盤として、誰に対しても心を込めて接しようとする態度を育てることは意義深いと考える。

- 本主題では、「礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。」ことを主なねらいとしている。

心のこもった礼儀作法とは、自他を認め合い、日常生活を円滑にしていくために欠かせないものである。また、言葉遣いも人間関係を円滑にしていくために大きな役割をもっている。礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、礼儀正しい行動をとることによって、自分と相手とが気持ちよく過ごせることである。

そこで、誰に対しても、本心からの敬意を払い、真心をもって接していくことの大切さを理解させることは大変意義深いと考える。

- 本資料は、店の前で少年とぶつかり、争って嫌な気分になった主人公が、次の日、またぶつかったにもかかわらず、相手の礼儀正しい真心のこもった態度によって、すがすがしさを感じたという話であり、相手の気持ちを考えた、真心のこもった対応の大切さに気付かせることのできる資料である。

本時指導にあたっては、動作化や役割演技を用いて二つの同じような場面で正反対の行動をとった主人公の気持ちに共感させ、ねらいとする価値に迫っていきたい。導入では、乱暴な言葉を言われたときの気持ちを考えさせ、本時のめあて「ことばの大切さについて考えよう」へとつなぐ。展開1の第1場面では、怒鳴り合っている場面をクラス半分ずつにして、児童対児童での動作化をさせることで、むしゃくしゃした主人公の心情に共感させる。第2場面では、謝り、許し合っている場面を、「男の子」「ぼく」という設定で役割演技をさせる。礼儀正しい振る舞いの大切さに迫らせるために、男の子の真心のこもった対応や「ごめんね」という言葉で、「ぼく」も「(みかんをひろってくれて) ありがとう」という気持ちになったことに、気付かせていきたい。その上で、自転車をすいすいこぎながら帰って行ったときのぼくの気持ちを、道徳ノートに書き、話し合う。価値に迫らせるために、意図的指名を行う。展開2では、「ごめんねといわれてうれしかったこと」など、真心のこもった対応でうれしかった経験を振り返り、価値を自覚できるようにする。終末では、価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

生活していく上で礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接する心情を育てる。

- 4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第3学年〇組教室において

- 5 準備 資料「ことばのまほう」、挿絵、道徳ノート、言葉のカード

6 展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 乱暴な言葉を言われて悲しくなったりけんかしたことを想起する。</p> <p>○ 歩いていたら「どけ」と言われた。</p>	<p>○ 意見がでなかった場合は、子どもの日記の抜粋を読み、これまでの体験を思い出しやすくさせる。</p>
展 開 1	<p style="text-align: center;">めあて ことばの大切さについて考えよう。</p> <p>2 資料を読み、主人公「ぼく」の気持ちについて考え話し合う。</p> <p>(1) 教師の範読を主人公の状況をおさえながら聞く。</p> <p>○ 今日は、まちにまったゲームのソフトが発売される日。</p> <p>○ ためていたお小づかいの入ったさいふをにぎって家をとびだした。</p> <p>(2) むしゃくしゃしてたまらないときのぼくはどんな気持ちか話し合う。</p> <p>○ いたいなあ、よく前をみる。</p> <p>○ あやまれ。</p> <p>○ せっかく好きなソフトを買いにきたのに。</p> <p>(3) スーパーでぶつかったときの気持ちについて話し合う。</p> <p>○ ぼくも悪かったんだ。</p> <p>○ みかんを拾ってくれてありがとう。</p> <p>○ あっ、昨日の子だ。親切だな。</p> <p>(4) うれしくなって帰っていったぼくの気持ちについて考え話し合う。</p>	<p>○ 教師の範読を通して、資料の概要をつかませる。</p> <p>○ 話の筋を確認するために、主人公であるぼくのゲームの発売を楽しみにし、そのためにお小遣いを貯めていたという状況、心境をおさえる。</p> <p>○ ぼくのむしゃくしゃした気持ちに共感させるために、「ぼく」と「男の子」になって動作化をさせ、考えさせる。</p> <p>○ 内容を把握させ、「ぼく」と「男の子」の状況を確認させるために、挿絵を提示する。</p> <p>○ 相手の真心のこもった態度（行為・言葉）で自分も素直にお礼を言う気持ちになったことに気付かせるために、「ぼく」「男の子」になって役割演技をする。</p> <p>○ 礼儀正しい振る舞いの大切さに迫らせるために、二つの場面の最初の言葉かけの違いを比べて考え、道徳ノートに書き話し合う。</p>
展 開 2	<p style="text-align: center;">自転車ですいすいこぎながら帰って行ったときのぼくはどんな気持ちでしょう。</p> <p>○ 汚れを落としてくれてありがとう。</p> <p>○ ぼくからぶつかったのに、すぐに謝ってくれて嬉しい。</p> <p>○ これからは、ぼくもやさしい言葉かけをしよう。</p>	<p>○ 価値に迫らせるために、意図的指名を行う。</p> <p>(相手の行為への感謝→相手の礼儀への気付き→今後の自分の行動)</p>
終 末	<p>3 自分の生活を振り返り、真心のこもった対応で嬉しかった経験を道徳ノートに書き、発表する。</p> <p>4 教師の話聞く。</p>	<p>○ 自分の経験を想起しやすいように、考えられる状況のカードを提示したあと、道徳ノートに書かせる。</p> <p>○ 誰に対しても相手の気持ちを思いやった振る舞いをしようとする意識の継続を図る。</p>